

## はじめに

本校ではこれまでも、さまざまな体験活動を年間行事に取り入れ、生徒の人間性の育成を図ってきたが、今回の指定にあたり、今までの活動をさらに体系化し重点的に研究を進めることで、生徒の豊かな心の育成を目標とした。

1 学校の規模          学級数 6（普通科）          生徒数 1 2 7          教員数 2 2

## 2 研究のポイント

- (1) ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動  
手話講座、天台寺清掃、中山の園体験学習
- (2) 自然に関わる体験活動  
岩手山青年の家宿泊研修、小岩井農場自然散策
- (3) 文化や芸術に関わる体験活動  
七宝焼き体験、漆工芸体験教室
- (4) 交流に関わる体験活動  
岩手山青年の家宿泊研修、中山の園体験学習

## 3 研究の概要

### (1) 地域の実態

浄法寺町は岩手県北部に位置し面積の大半は森林である。漆工芸、葉タバコの生産を基幹産業としており自然豊かな地域である。

また、古刹として名高い天台寺を有し、近年では浄法寺太鼓などの郷土芸能も盛んで、地域と連携した教育活動も可能である。

「総合的な学習の時間」では、浄法寺太鼓、手打ちそばなど地域の活動を取り入れた体験学習も行なっており、その成果は文化祭で地域の人々に発表している。中には校内の活動ではじめて太鼓に触れ、現在では地域の後継者となっている生徒もあり、地域からの期待も厚い。



### (2) 学校の実態

本校は、昭和 23 年に岩手県立福岡高等学校浄法寺分校として設置され、50 年に分離開校した。校舎は緑豊かな高台に位置し、ゆったりとした自然環境に恵まれている。

生徒は明るく純朴で友人や周囲の人に優しく接することが多い。しかし、少子化の問題は年々深刻であり、田畑の手伝いをするといった生活経験や体験活動が不足してきている。そのため、自分の考えを持ち意見として主張できない生徒も増えている。

### (3) 主題設定の理由

21 世紀を迎え、世の中はますます科学の進歩のめざましい社会へと動いている。

こうした中であって生徒を取り巻く環境も、少子化、テレビゲーム・携帯電話の普及など大きく変化している。特に近年、青少年による犯罪が多発し凶悪化の一途をたどっている状況を見ると、青少年の豊かな人間性が失われつつあるように思われる。

これは、自然との触れ合いの欠如、多様な人間関係の中での生活体験の不足や、学校・地域・家庭での社会体験の不足が原因と考えられる。

そこで、本研究では学校教育や地域活動の中での体験学習を通して、生徒に人間性

の大切さを考えさせることを目的とした。

#### (4) 研究の組織

学校内にPTA・同窓会役員を含めた学校支援委員会を組織し、研究の企画立案を行うとともに、研究の推進に当たっては第1学年団を中心に、各分掌・教科と連携しながら、地域社会の関係諸団体の協力を得て研究を進めた。

### 4 研究実践の主な内容

#### (1) 新入生オリエンテーション宿泊研修

4月15日～17日(2泊3日)、国立岩手山青年の家を会場に宿泊研修を実施した。高校生としての自覚を喚起するとともに、充実した高校生活のための心構えを育成し、あわせて同期生との親睦を深めることをねらいとした。

研修では七宝焼き体験や手話講座の体験学習を行なった。入学後、間もない時期の体験活動は生徒間で問題解決しようとの姿勢が見られ、友人形成にとっても意義があった。

<生徒の感想より>

最初は手順に戸惑い、何回もやり直しと言われてつらい思いもしました。しかし、できあがった作品を見ると達成感でいっぱいでした。できればあまりよいとは言えませんが、友達と教え合ったりグループごとの交流もできて、よい体験でした。



#### (2) 天台寺清掃奉仕活動

5月1日、ボランティア活動として天台寺の清掃を実施した。集団の中で、責任をもって主体的に自分の役割を果たし、協力して集団の向上に努める態度を養うことをねらいとした。地元に住みながら初めて訪れた生徒もあり、地域にある天台寺の存在と歴史について、実体験を通して学ぶよい機会となった。



<生徒の感想より>

天台寺は浄法寺町の象徴であり、多くの人々が各地から参拝に訪れます。その人々に気持ちよく訪れていただくためにも、ゴミひとつ残さないという思いで臨みました。

参道には吸殻が多く、掃除をしながら悲しい気持ちになりました。

しかし、町内の方から優しく声をかけていただいた時にはすがすがしい気持ちで、みんなが環境について考えなければと強く思いました。

#### (3) 小岩井農場自然散策

5月15日、学年遠足の中で手作りバターとペーパークラフトの作成を体験活動として行った。郷土の身近な自然に親しむとともに、生徒相互、教師と生徒との交流をねらいとした。自然散策では、関東の高校生が修学旅行で訪れていることに生徒たちは驚き、郷土の豊かな自然を再認識できた。

#### (4) 漆工芸体験教室

8月28日、地域に学ぶ活動として、浄法寺町の伝統工芸である「浄法寺塗」について学び、さらに文化財についての理解と継承の意識を高揚させることをねらいとして、浄法寺町の工房「滴生舎」を会場にして体験教室を実施した。体験教室内では急須台と箸に絵付けを行い、作品は文化祭で展示した。また、事前指導として浄法寺塗の歴史についても学習し、「歴史民俗資料館」を見学して浄法寺町と漆器の関わりに

ついて理解を深めた。

<生徒の感想より>

今回の漆工芸体験教室に参加して、あらためて物ができるまでの大変さを知り、物を大事にする意味を考えました。私は漆をテレビでしか知りませんでした。この体験教室では「がんばって作ってみよう」という気持ちでいっぱいになりました。

しかし、絵付けでは緊張して手が震えてしまいました。それでも指導してくれた皆さんのおかげで、なんとか作ることができました。自分としては、できればよりも最後まであきらめないでやることができ、うれしく思います。できあがった作品を見て、今度は大きい器にも挑戦したい気持ちになりました。



#### (5) 中山の園キャップハンディ体験教室

12月16日、知的障害者総合支援施設「岩手県立中山の園」を訪問して、キャップハンディトレーニングを受講した。福祉施設の見学と体験を通して、ノーマライゼーションについての理解を深めるとともに、ボランティア活動に対する意識向上をねらいとして実施した。体験活動では、様々な疑似体験を行い、また、就業の様子を見学することで障害のある人との交流についても考える機会とした。事後指導としてアンケート調査を実施して意識の変容の把握に努めた。

<生徒の感想より>

今回のキャップハンディの体験をして、障害のある人の気持ちを知ろうとしても、本当の気持ちを全部知ることは無理だと思いました。それでも、障害のある人が心を開いてくれるように、本当に困っている時に優しく手をさしのべてあげたいと思います。



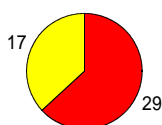
<アンケート集計結果> 対象：生徒 46名

- 1 これまでに、このような体験をしたことはありますか。(表1)
- 2 1で「ある」と答えた人は、どのような内容のものでしたか。
  - ・ キャップハンディ体験 27名
  - ・ 介護体験 1名
  - ・ 施設行事の補助 1名
- 3 今までに障害のある人と親しく接したことはありますか。(表2)
- 4 今回の体験を通して障害のある人への印象が変わりましたか。(表3)
  - ・ 日常生活を送ることが大変なことだと改めて感じた。2名
  - ・ 障害があっても普通に生活できると感じた。2名
  - ・ 障害の大変さを軽く見ていた。1名
  - ・ 積極的に補助していきたい。1名

以前の体験の有無と意識変容との関係（表4）

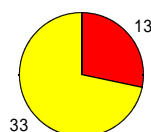
（表1）

■ある ■ない



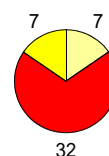
（表2）

■ある ■ない



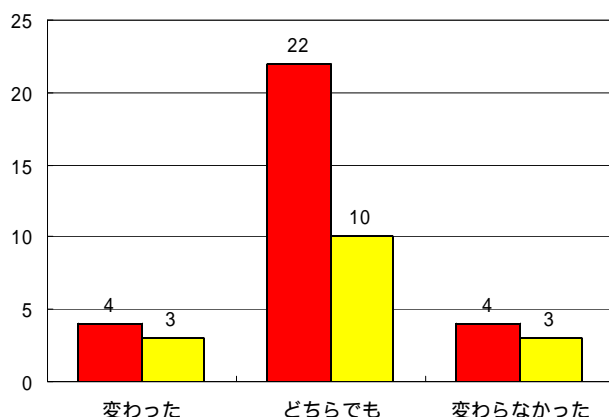
（表3）

■変わった ■どちらでも  
■変わらない



（表4）

■体験あり ■体験なし



<分析>

6割強の生徒は、以前にも体験活動を行っており、全員がボランティアの必要性を感じている。

生活の中で交流体験をもつ生徒は少なく、体験活動を通して機会をもつ必要がある。

7名の生徒に意識変容が見られたのは成果である。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

ア 各種の技能体験では、未知の技術や環境に触れることで新しいことへ積極的に取り組んでいこうとの意欲を喚起できた。

イ 清掃活動では、公共心の重要性について生徒一人一人が認識できた。

また、地元に住みながら初めて訪れた生徒もあり、漆工芸体験とあわせて、地域の文化について実体験を通して学ぶよい機会となった。

ウ ノーマライゼーションの体験では、障害のある人に対する意識の変容が見られ、有意義な体験であった。加えて、ボランティア活動にも今後積極的に参加しようとの意欲を喚起できた。

(2) 今後の課題

ア 個々の体験活動の成果にとどまらず、それぞれを関連させて、更に生徒の人間性の育成に努めていきたい。

イ 関係諸団体との連携のみならず、家庭との理解協力を深めることで、地域に根ざした活動を展開していきたい。

ウ 変容しつつあるボランティア活動への意識は、学年の枠をこえて生徒会活動として発展させていきたい。

おわりに

2年間の研究の1年次ということで試行錯誤の取り組みであったが、生徒の意識の変容が行動の変容につながるように、今後とも体験活動を継続していきたい。